

令和4年度校内研究基本計画（案）

はじめに

これまで3年間、各学年「自ら問い、おもい、かかわる」授業づくりの追究・子どもを見取る力を高める、の2点を研究課題とし、様々な手立てを用いて目指す子どもの姿に向かって取り組んできた。

今年度は、材により愛着をもたせることと困難さに立ち向かえるようにすること、見取りを生かして個に応じた問い返しを行っていきことにさらに意識を高めて取り組んでいくことで、研究主題である「他者と協働し、やりぬく力を育む ～自ら問い・おもい・かかわる子～」に近づけていきたい。

1. 研究主題

(1) 研究主題と本校で目指す子どもの姿との関連

学校長の経営方針から

学校教育目標：元気な子 深く考える子 思いやりのある子 進んで働く子

目指す子どもの姿

○元気な子：進んで体力（運動・遊び）をつけ、健康・安全に気を配る子

失敗を恐れず、最後まであきらめずに取り組むたくましい子

○深く考える子：自ら考え、仲間と学び合い、問題解決能力を身につける子

○思いやりのある子：友だち、自分のよさを見つけ、共に支え合い助け合い笑顔で生活する子

○進んで働く子：学校や地域の集団の一員として多様な他者と関わり、主体的に役割を果たす子

目指す子どもの姿から、基礎的・汎用的能力に関わる部分を抽出すると以下ようになる。

これらからキーワードとしてあげられる基礎的・汎用的能力は、

○進んで、主体的に→①主体性、②向上心

○最後まであきらめずに→③やりぬく力

○問題解決能力→④問題解決能力

○ともに支え合い助け合い→⑤コミュニケーション

○多様な他者との関わり→⑥相手意識、⑦多様な他者との関わり、⑧市民性・地域愛 となる。

これらを分類し、

①②③→やりぬく ④⑤⑥⑦⑧→協働 と本校では定義する。

ここから研究主題を以下のように設定する。

研究主題：他者と協働し、やりぬく力を育む ～自ら問い、おもい、かかわる子～

校内研究で目指す子どもの姿

○自ら問い（主体性、向上心、やりぬく力）

○おもい（問題解決能力）

○かかわる（コミュニケーション、相手意識、多様な他者との関り、市民性・地域愛）

これらの3つの項目ごとに編成した「目指す子どもの姿」に向けて指導していく。

(2) 研究主題・つきたい基礎的・汎用的能力とキャリア教育との関連

相模原市では「小中一貫でキャリア教育を推進します！」をスローガンに掲げている。そして「子どもたちが夢や希望を持って未来を切り拓く力を育成するとともに、将来の社会的・職業的自立に向けたキャリア形成を支援し、社会で自己実現する人材の育成を図る」という目標を設定している。

相模原市では、キャリア教育で育みたい力として、「つながる力」「自律する力」「乗り越える力」「見通す力」の4つの力を設定しており、本校で育む基礎的・汎用的能力とは以下のように関連付けできる。

①つながる力（人間関係形成・社会形成能力）...⑤コミュニケーション、⑥相手意識、

⑦多様な他者との関わり、⑧市民性・地域愛
「かかわる」

- ②自律する力（自己理解・自己管理能力）.....①主体性、②向上心「自ら問い」
③乗り越える力（課題対応能力）.....③やりぬく力、④問題解決能力「自ら問い」
④見通す力（キャリアプランニング能力）.....①主体性、②向上心「おもい」

2. 研究の目的

- ◎子どもの基礎的・汎用的能力を高める。
主体性、向上心、やりぬく力、問題解決能力、コミュニケーション力、相手意識、多様な他者との関わり、市民性・地域愛の育成。
- ◎教師の実践力向上を目指す。
授業力の向上
(単元のつくり方、課題のもたせ方、考えのもたせ方、考えの見取り方、考えの取り上げ方、考えのまとめかた、考えのつなげ方、考えの広げ方...など)

3. 研究課題

「自ら問い、おもい、かかわる」授業づくりと教師が子どもを見取り、生かす力を高めることを研究課題とする。

- 課題 ○「自ら問い、おもい、かかわる」授業づくり
○子どもを見取り、生かす力を高める。

4. 研究の内容

研究課題へ切り込むための2つの視点

※具体的には「5. 研究の方法」で

- ①材の分析からの単元構成（教材分析・教材研究・教材開発→評価規準の作成）
- ②教師の出（指導方法、1単位時間の授業づくり）

5. 研究の方法

(1) 学年提案 ～材の分析からの単元構成と教師の出～

- ①材の分析からの単元構成（教材分析・教材研究・教材開発→評価規準の作成）
材をどのように分析し、その材から何を学ばせたいのか。また、それらをどのような学習の展開で学ばせ、どのように子どもたちに提示するのか。目指す子どもの姿と生活・総合で身につけた力を合わせた評価規準を作成することで自分たちが育てたい子どもの姿に近づけていく。
- ②教師の出（指導方法、1単位時間の授業づくり）
発問、問い返し、見取りの方法、板書、振り返りの活用など、本時の中でどのように子どもたちに接するのか、どのような手立てをうち目指す子ども像に近づけていくのか。本時の中で、子どもの姿を見取りながら適切な手立てをうっていくことで、教師の実践力向上を図るとともに、子どもたちの力を伸ばしていく。
特に今年度は、教師の出として板書計画に明確なポイントを明記することで、教師の引き出しを増やすとともに、子どもたちの成長へとつなげていきたい。

以上の点を学年で具体的な提案をし、授業実践を進めることで、研究課題に取り組んでいく。

(2) 研究授業

学年提案は研究授業という形で行われる。提案に対して、研究課題に切り込む2つ目の視点「教師の出」をもとに協議を進める。毎回の研究授業で「成果」と「課題」を明らかにして、毎回の提案が積み重なっていくようにする。

令和4年度の研究授業・指導案

◎1人1公開（全体公開1、学年公開1～3）※実施日は事前に推進委員長に連絡

※共通理解として、学年間で同単元、本時が同じも可とする。

◎成果と課題の明示・共有→協議会の中で明確化。その後、推進委員会で分析。

◎学習指導案「プロジェクトシート・本時案・気になる子（成長を期待する子のこと）・板書計画」

本時案のあとに気になる子の記述（気になる子がわかる座席表を入れる）と板書計画
学年公開は、「本時案」のみとする。

研究授業の指導案検討については、全体公開は「学年検討→公開→推進委員会で分析・整理」。学年公開は「学年検討→公開」とする。なお、指導案は検討後随時直してもよいが、基本的には、全ての検討を終えた後、直して公開する形とする。また、全体公開授業においては、指導案は職員全員に2日前の16:55までに配付することとする。

(3) 研究協議

成果と課題を明確にしていく。成果と課題を明確にするための協議の行い方を推進委員の授業研究部で提案する。協議会の運営（司会、記録）は提案授業を行う学年で担当する。多様な協議の方法を実施することで、今後に生かしていく。また、授業中の参観のポイントなどは、事前に共通理解をもつようにする。

また、成果と課題については推進委員で再度確認し、校内研だよりにまとめて、全体に報告することで共有する。

(4) 研究の蓄積

- ①研究情報の発信...研究主任・研究副主任
校内研だよりやブログなどで取り組みの共有と発信。成果と課題の共有。
- ②研究協議の改善...授業研究部
協議の内容や方法、流れ、時間配分などの改善。教科部会の内容改善。
- ③研究情報の蓄積...データ管理部
ビデオ、写真、授業記録・会議記録の整理
- ④校外研修の積極的な実施...研修企画部
推進委員は最低1回、校外の研究先進校を視察しに行く。また、職員全体にも呼びかける。報告会の企画・運営。（校内研修と連動）
- ⑤校内掲示、教室掲示の充実...データ管理部
校内廊下などの掲示物・教室内の掲示物の提案

(5) 重点とする教科・領域

令和4年度の重点教科・領域

提案授業は、生活科・総合的な学習の時間・生活単元学習で行う。本校で育みたい基礎的汎用的能力と生活・総合で育む資質能力がリンクしており、授業づくりのねらいを明確にすることができるため、研究主題に迫りやすいと考えるからである。

(6) 研修

研究授業への積極的な参加

研究先進校の研究発表会への参加

研究指定校、附属小学校、伊那小・大岡小・戸部小・日枝小（生活・総合）など

(7) 環境整備

校内環境

「大野小の目指す子ども」の提示、見える化を図る。

具体的な掲示

教室の掲示板：生活科・総合的な学習の時間の学習活動の流れが分かるように工夫する。

校内廊下の掲示：各学年、クラスの取り組みが分かるように工夫する。

6. 研究組織

令和4年度の研究組織

◎企画会

校長・副校長・推進委員長・教務主任・研究主任・副研究主任で構成。全体的な方向性の確認。

◎推進委員会

①専門部 役割分担

授業研究部【 渡部 ・ 増澤 】

成果と課題が明確となる研究協議の改善

データ管理部【 笹山 ・ 水戸 】

研究情報の蓄積、管理（ビデオ、写真、授業記録の整理・掲示物）

研修企画部【 小笠原 ・ 濱田 】

研究先進校の研究会の紹介、計画

②研究授業の質の向上・・・推進委員会での授業後の成果と課題の分析・整理

◎学年部会

①提案授業

②全体協議会の運営（司会、記録）

研究組織図

